自然保護課だより
かわせみ通信
第16号（平成31年2月発行）
発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課
住所：神奈川県厚木市七沢657
TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

自然環境保全センター　生き物　検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園(昭和57年オープン)と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前(旧林業試験場時代)に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を掲載しています。

●気になる生き物●

＜「3度目の正直」ならず･･･＞

2015年から毎年11月になると雑木林（地番杭K14付近）でクロヤツシロランと思われるランの仲間の実が見られます。高さは20㎝ほどで、黒っぽい紡錘形のさく果です。「来年は花を見よう！」と探し続けて3年…。残念ながらいまだに花は見つけられていません。クロヤツシロランの花は暗紫褐色で開花時の茎の高さは1～3㎝と、目立たない姿をしているようです。毎年実が伸びてからでないと見つからないので今回は夏の終わりに草を刈り入念に捜索しましたが、見つけることができませんでした。この植物は、植物の根に共生している菌類から栄養を得る植物で、竹林の中に入り混じって生育するそうです。だとすると、ササや草を刈ったのは、かえって失敗だったかもしれません。今年も同じ場所に育つでしょうか？注目しましょう！

熟すと裂けて種子が落ちる（12月8日）

高く伸びた実（2018年11月18日）

＜共同トイレ＞

樹木園（E6付近）シラカシの林の中で見つかった動物の糞。量が多いので目に留まり、窓口まで質問しにくる方がいました。これはタヌキのため糞です。タヌキは複数の個体が同じ場所で糞をします。いわゆる共同トイレです。よく見ると糞の中にはさまざまな植物の種子や皮が混ざっていて、カキの種子やイチョウの種子（銀杏）が多いようでした。銀杏の外側の果肉部分は人間にとっては強烈なにおいですが、タヌキにとってはおいしいごちそうなのでしょうか？

タヌキのため糞（2018年12月26日）

＜ススキ原の住人は？＞

カヤネズミの巣

巣の中身

本館の東側には苗畑があり現在はススキの多い草原となっています。12月下旬、草を刈ったあとでカヤネズミの巣がたくさんあったことがわかりました。カヤネズミの「カヤ」はススキのことで、その名の通り、巣はススキなどのイネ科の植物の茎に葉を細かく裂いてボール状に編み込んでつくります。拾ってきた巣を触ってみるとしっかり編み込まれて、けっこう頑丈。でも中はさらに細く裂いた葉がふかふかで、シンプルながらなかなか快適そうな住まいです。

そんな巣の住人であるカヤネズミは、頭胴長6㎝、尾長7㎝、体重は10ｇ前後の日本で一番小さなネズミです。春から秋にかけて、休憩や子育てに巣を利用し、冬は地表の枯草などの堆積物の下や地下に掘った穴の中で過ごします。草を刈ってしまったので心配でしたが、この巣はすでに使用済みのもののようで安心しました。

自然観察園で撮影されたカヤネズミ（1984年）

カヤネズミの生息するススキなどの草原は、休耕田や河原などが多く不安定な環境です。人の手によって開発されたり、ササや樹木などの他の植物が入り込むことでやぶや林に移り変わっていくこともあります。生息環境を失いやすいカヤネズミは県内で準絶滅危惧種に指定されています。自然観察園の谷戸でも観察されたことがありますが、現在はその姿や痕跡を見ることはできません。目につきづらい小さな生き物ですが、適した場所を見つけて生きているのだと感心しました。今後はススキ原を見つけたら要チェックです。

＜眠る者、目覚める者＞

こんなところで冬眠中

アマガエルは、大抵土の中で冬眠するものだと思っていました。しかし、ヤマザクラの木の又の隙間で冬を越そうとしているカエルがいます。体の色は周囲に溶け込むように黒っぽくなっていて、隙間の上には蓋のように落ち葉がかぶさってちゃんと隠れています。このカエルは11月17日から観察されていて、初めのころのまだ暖かい日には隙間から出てきて近くにとどまっていました。中に入っているときも、そっと落ち葉をめくるとびっくりしたのか、怒ったのか「キャッ」と声をあげていました。年が明けてからは葉をめくってもぴくりとも動かなくなり、ぐっすり眠っているようです。無事に寒い冬を越せるといいですね。

一方、一足早く冬眠から目覚めるカエルもいます。雨が降った後に気温が上昇した2月4日、ヤマアカガエルの産卵行動が見られました。一斉に池に集結してメスをめぐりオスが鳴き合う様子は、「ココココーケケケー」ととても賑やか。こちらが近づくと身を潜めてしまうので、気配を消して、そ～っと観察しました。翌日池を見るとばっちり卵が産んでありました。産卵場所の池は12月から1月にかけて、職員の手で少しずつ池の浚渫を行っていたところです。堆積した土砂を脇に掻き上げ、池の水位を維持します。カエルの産卵場所を保つことができたようでよかったです。

池に集まるヤマアカガエル（2019年2月4日）

3月下旬にはアズマヒキガエルもやってきます。また賑やかな「カエル合戦」が見られるでしょう。

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます

神奈川県　野生動物救護　検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

●平成30年10月～12月の報告●

＜ 受け入れ状況 ＞

受付件数の多かった上位種		
1位	タヌキ	8 件
2位	ヒヨドリ	5 件
3位	キジバト	4 件
4位	アオバト	3 件
5位	カワウ アオサギ コサギ オオバン トビ ムクドリ	2 件

主な救護原因			
＜鳥　類＞		＜哺乳類＞	
ガラス窓などへの衝突	14 件	疥癬症（かいせんしょう）	4 件
ネコなどに襲われる	9 件	交通事故	3 件
釣り糸（針）や 防鳥ネットなどに絡む	3 件	箱罠	1 件
交通事故	2 件	誤認保護	1 件
粘着剤にかかる	1 件		
悪天候（台風）など	1 件		

＜ 活動内容 ＞

10/ 7　NHK 「ダーウィンが来た！第568回　住まいは東京！幻のタカ」の放送で当センターの保護されたツミを紹介

10/21　救護動物特別公開「テーマ：哺乳類」延べ126名来場

●ボランティア活動の紹介●Vol.2

野生動物救護ボランティアの日々の活躍をボランティア歴14年のＩさんに伺いました。

Q: ボランティアになったきっかけは？

A: 「素敵な宇宙船地球号」という番組を見て、傷ついた野生動物の野生復帰の手伝いがしたいと思いました。

Q: 世話をする時に心がけているところはありますか？

A: 言葉をもたないので、嫌そうにしているか、喜んでいるかよく表情を観察しています。看護師の経験上、人が嫌がることは動物も嫌がるだろうという思いで接しています。

Q: 右の写真のように四隅にワクを作ったら過ごしやすいのではないかと考えた理由は？

A: このキジバトは左側に倒れた体勢のまま、頭だけをあげていたので、首が疲れるだろうと思い考えました。四方囲まれていれば寄りかかれるし、枕にもなると思いました。

Q: 好きな野生動物は？

A: 鳥全部！

ワクは、角材のまわりに滑り止めシートを巻いて、黒いビニールテープで固定しています。４本バラバラになるので掃除もしやすく、ケージの大きさに合わせて手づくりされています。

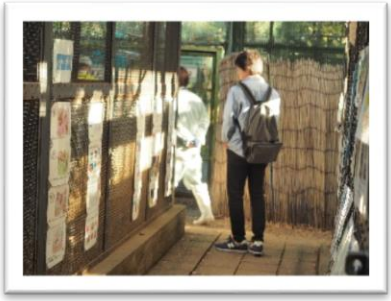
Ｉさんのアイデアと工夫のおかげで、キジバトが動いても床に敷いたタオルなどがズレなくなり、ワクに寄りかかりながら自力でエサも食べることができるようになりました。さらに足の悪い他の個体にも使うようになりました。どうもありがとうございました。

30年度
第1回

救護動物の特別公開

とても暑かった夏が終わり、
涼しくなってきた2018年10月21日の日曜日、
ふだん非公開の傷病鳥獣救護施設の一部を開放しました。

＜実物・パネル・はく製・リアルぬいぐるみで実感！＞

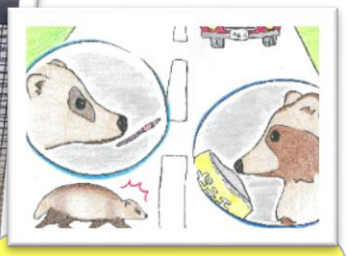


「この鳥はもう外の世界に戻ることができないんですよ」と説明。それを聞いて、鳥たちを見て、何か心に残してくれたでしょうか。

傷病鳥獣事業が始まって平成30年度で41年になります。今回の展示では保護される数が多い哺乳類の中で、特に混同しやすいタヌキとアナグマについて紹介しました。公開可能な動物のほか、はく製やリアルぬいぐるみも展示して、大きさや毛並み、骨格など実感していただきました。

普段は間近で見たり、出会ったりする機会が少ない野生動物たちですが、神奈川県内で保護されるには様々な原因があります。その現状についてスタッフがやさしく説明すると、子どもたちも興味深々で覗き込みながら熱心に話を聞いてくれました。

ところで、タヌキについて、積み重ねてきた救護記録を見てみますと、秋から冬にかけて保護の数が増加し、また、保護される原因はカイセン症と交通事故が多く、2大原因といえるようです。そんな保護の数や救護記録をもとに、タヌキが1年を通してどんな生活をしているのか、イラストで展示紹介したところ、多くの方がじっくり読んでくださいました。



心温まる手描きイラストや、掲示物の展示、事前準備、データ収集など、野生動物救護ボランティアの皆さんの協力をいただきました。

毎回更新される手描き看板がお出迎え。遠くからでもよく見えます。

30年度 特別公開　第2回は、
2019年　3月24日(日) 13:30～15:30

申込不要・参加費無料・雨天決行
※但し、感染症の発生・悪天候により中止する場合があります。

前回の公開内容の一部を傷病鳥獣棟入口に展示しました。ぜひ、見に来てください！